

原文帳の作り方

速記する時に使うノートのことを**原文帳**(げんぶんちょう)といいます。速記したものを漢字仮名交じり文に戻す前の原本、とでもいう意味かもしれませんが。「速記ノート」と言っても構いません。以前、早稲田の通教では通信販売していましたが、いまは自分で作るしかなさそうです。

原文帳は、書道半紙で作るのが普通です。高校の速記部ではわら半紙で練習している学校もありますが、初歩のうちは、シャープが滑りすぎず引っ掛かりすぎず、程よく書けるのはやはり書道半紙だと思います。

ここでは、私がいつも作っている方法をご紹介します。

1 準備するもの



○書道半紙1しめ(1000枚)…箱で売っているお店を探してください。紙は安くてもいいですが、私は裏表の差が少なくごわごわしないものを選びます。写真は私の好みの紙。池袋駅近くの紙屋さんで購入。2箱組でした。

○液体のり …スティックのりは不適です。

○カッター …大きい方が楽。普通のサイズだとかえって危険なようにも思います。

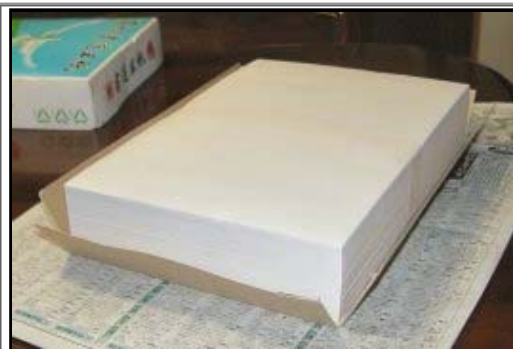
○定規 …長く厚いものが使いやすい。

○ペーパーナイフ …薄い定規で代替できればそれでも可。

○新聞紙など、テーブル保護用の敷き紙

※カッターやペーパーナイフを扱う際は危険ですから、自己責任で扱ってください。特に、小さいお子さんがいるお宅は注意しましょう

2 短辺にのり付け



新聞紙を敷き、箱の角4カ所を切り開きます。次に、短い面にのりを塗ります。反対側も同様。乾いたらもう1、2度、上塗りします。私はテカリが出るくらいが好きです。まんべんなく塗って乾くまで待ちます。夏は早いのですが、冬は乾きにくい。うちわなどであおぐのもよし。ドライヤーなどはいけません。

3 中央からカット開始



乾いたら、半分のところに線を引いて、カッターで切っていく。同じところを繰り返して切り下げていきます。

※危険を伴います。手などを切らないよう、くれぐれも注意してください。けがを負っても責任は負いかねます。

4 1冊分ずつカットして外す



20枚ごとに青いしおりが挟まっているのでこれを目安に、1冊分くらい切り進んだら中断し、好みの枚数のところにペーパーナイフを入れて外していきます。私はしおり5枚分、100枚ずつくらいが好みます。



これを繰り返します。最後はテーブルを切らないよう、必ず新聞紙などを厚く敷いてから切ってください。

最後に、青いしおりを取り除いていきます。以前、検定で速記していて、めくったらこれが残っていたので慌てました(^_^;

5 完成



出来上がり！ 1時間くらいはかかるが、心を込めて作ったものはいいもんです。

途中からだんだん中心線を外れて、長短ができるのはご愛きょうということで…(^_^)



手間はかかるが、2つ折りにする方法に比べ、開いてもじしろのところが膨らまないなので、速記していて気分良いのです。

[TOP](#)